

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鴨沂高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	第3学年3組（京都文化コース）生徒 39名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 京都文化科（学校設定教科） 「京都の産業文化」（学校設定科目）（第3学年京都文化コース生徒 39名））
4 目 標 （ねらい）	（1）テーマ オリンピック・パラリンピックイヤーに向けたフランス姉妹校との文化交流 ～私たちが考えるコロナ禍に負けない文化の力～ （2）目標（ねらい） 次回オリンピック・パラリンピック開催国でもあるフランス・モンペリエ市・姉妹校「ジュールゲード国際高校」生徒との文化交流を通して、世界同時コロナ禍の中であって、「文化」や「尊重」、「勇気」などの価値を改めて共有し励まし合い、両校の絆を深める。
5 取組内容	（1）鴨沂高校からジュールゲード校へのメッセージⅠ ① ねらい グローバルな視点に立って、世界同時コロナ禍やオリンピックイヤーなどをテーマに、姉妹校生徒との文化紹介やメッセージの往還などの交流に取り組むことを通して、文化の大切さを改めて考えるとともに、両校の友好の絆を強める。 ② 実施 ア 7・8月 3コマ イ ICTアプリケーション「クラッシー」を活用。 ウ ジュールゲード校へのメール発送は8月。 ③ 交流内容 ア コロナ禍において考えたこと。（テーマごとに個別記述。） イ 京都・日本文化の魅力発信。（グループでスライド作成。） ウ 姉妹校生徒同士のQ&A。 ④ 取組内容 ア 「世界同時コロナ禍において考えたこと。」をテーマに、生徒が書いた文章をメール送付。 （ア） コロナ禍の学校休業中に、自分が新たに始めたこと、特に頑張ったこと。（抜粋） ・朝に散歩をして生活リズムを崩さないようにした。 ・妹と毎日川まで歩いて橋の下で踊っていました。 ・家でも毎日筋トレとか柔軟をしました。

- ・部活の自主練習。
 - ・一週間で英語を250覚えるようにした。
 - ・大学の情報収集。(入試がどうなっていくか等。)
 - ・受験に向けての勉強をはじめた。
 - ・テレビでニュース注目して見るようになった。
 - ・前より、読書をするようになった。
 - ・家事の手伝い。
 - ・外出を極力しないこと。
 - ・部屋のレイアウトを変えた。 等。
- (イ) コロナ禍の中で、自分がしている対策。
- ・人混みを避ける。(抜粋)
 - ・手洗い・うがい、殺菌シートを持ち歩く。
 - ・できるだけ公共交通機関を使わない。
 - ・マスクを玄関前のゴミ箱に捨ててから、家に入る。
 - ・アルコールを見かけたら消毒している。
 - ・すぐ帰宅。
 - ・毎晩検温して寝る。
 - ・スマホ消毒。 等。
- (ウ) コロナが収束したら、何が一番したいか。(抜粋)
- ・マスクを外した生活を送る。
 - ・旅行に行きたい。
 - ・ライブに行きたい。
 - ・Disney resort にいく
 - ・映画館、カラオケに行く。
 - ・遠方の友達に会いに行くために旅行がしたい。
 - ・オープンキャンパスに行きたい。
 - ・コミックマーケットへ行く。
 - ・医療従事者にお礼を言いたい。 等。
- (エ) コロナ禍の中で一番困ったこと。(抜粋)
- ・外に出れないこと。
 - ・マスクが暑い。
 - ・何するにも距離あけないといけない。
 - ・消毒の範囲をどの程度消毒したらいいかわからない。
 - ・高校生活最後の予定が全て狂った。
 - ・外出自粛期間にずっと家にいるストレス。
 - ・コロナ感染が心配で、祖母の家に行けないこと。
 - ・勉強、課題のやる気が出ない、集中できない。
 - ・勉強が遅れている
 - ・休校中の課題がやたら多いこと。
 - ・フランス研修の中止。
 - ・学校休業による学習面の不安。
 - ・塾に行って授業を受けることができなかったこと。
 - ・お祭りなどのイベントがなくなったこと。
 - ・運動不足になりがち。 等。
- (オ) コロナ禍の中で、再確認した大切なこと。(抜粋)
- ・家族とのコミュニケーション。
 - ・いつもの生活が大切。
 - ・私がどれだけ学校が好きかわかった。
 - ・学校に行くこと、当たり前の日常。
 - ・友達に会えること。

- 普通に何事もなくすごすこと。
- 免疫力。
- 外の空気を吸って運動する楽しさ。
- 差別をしないこと。
- 自分だけのためじゃなく人のためにも行動すること。
- 命の大切さ。
- アニメやマンガ、ゲームなどが日本に多くあること。
- 京都はインバウンドやホテル業に頼りすぎていて、もっと京都の良いところをアピールすべきということ。
- ニュースを見て、正しい情報を知ること。(ネットの情報を鵜呑みにしない)。 等。

イ 姉妹校生徒への質問。(抜粋)

- フランスで人気のアイドルはいますか。
- スマホで1番使うアプリは。
- 励まされたアニメ、ゲーム、音楽はありますか。
- フランスのおすすめの伝統料理、伝統お菓子は。
- コロナがもしパッとこの世から消えたら、まず何がしたいですか。
- コロナのつらい状況で、元気をくれたあるいは励みになった存在は。
- ジュールグード国際高校の良いところ、好きなところは。
- 地元の綺麗な場所は。
- 高校生活で思い出に残っていることは。
- 京都とモンペリエで、文化の違いや共通点を感じることはありますか。
- フランスでの自粛中の楽しみ方は。
- 日本の文化でいちばん関心があるのは何か。 等。

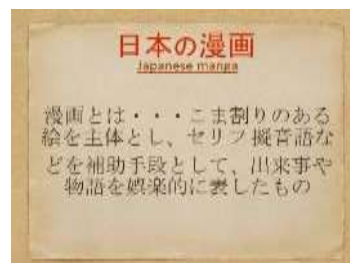
ウ 京都・日本文化の魅力発信。(グループでスライド作成。)

※ファイル：キーノート(学校のアイパッドを使用。)

(ア) 各グループ(10グループ)のテーマ

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1班:「アマビエ」 | 2班:「日本の漫画」 |
| 3班:「音楽」 | 4班:「カラオケ月間ランキング」 |
| 5班:「京言葉」 | 6班:「日本の歌手」 |
| 7班:「日本のアニメ」 | 8班:「日本の高校生の好きな食べ物」 |
| 9班:「日本のお菓子」 | 10班:「京都発祥のチェーン店」 |

(イ) 抜粋(2班:日本の漫画)





(2) ジュールグード校から鴨沂高校へのメッセージ (12月)

① 予定変更について

フランスにおける爆発的な新型コロナウイルスの感染により、ジュールグード国際高校が休校となったため、予定していたメッセージの往還が当面見送られることとなった。

また、現地担当教員との相談の上、コロナ禍における緊迫した状況において、精神的に不安定な生徒が多く見られることから、今回のメッセージの往還にコロナをテーマとした内容を省くこととした。

従って、ジュールグード高校からのメッセージについては、自由な内容を、可能な時期に、無理のない範囲で実施することとした。

② ジュールグード校からのメッセージ (12月)

ア 日本語の授業を選択しているジュールグード生徒5名からのメッセージが届き、授業において生徒に紹介した。

イ 実施 1月 1コマ

ウ 抜粋

はじめまして、エレアです。17歳で、フランス人です。私は姉と妹がいます。趣味はダンスとピアノです。将来、医者になりたいです。英語とスペイン語が話せて、日本語を勉強しています。日本は美しい国なので好きです。ことばはきれいです。そして、日本の歴史は魅力的です。去年の10月に日本に来ました。とても面白かったです。日本のハロウィーンのパーティーは楽しいです。フランスにハロウィーンの大きなパーティーがあります。子供たちはドレスアップしてグループで近所の人にお菓子を頼むのです。

もうすぐクリスマスですね。それはフランスでは大切な行事です。フランスでは、家族と食事をしたり、お互いにプレゼントをあげたりしています。(サンタクロースはフランス語で訳したら、「クリスマスの父」です。「papa noël」「パパノエル」と発音します。)

サンタクロースは一年中におとなしい子供たちにプレゼントをあげると信じています。可愛いですね。(^^)

あなたは将来にどんな仕事をしたいですか？そして、日本ではクリスマスの祝い方はなんですか？

写真はクリスマスツリー

メリークリスマス！(^^)



(3) 鴨沂高校生からジュールグード校へのメッセージⅡ

① ねらい

世界同時コロナ禍におけるジュールグード生徒への配慮から、「コロナ」や「オリンピック」の先行き不透明なテーマを避け、高校生にとって身近で親しみのあるテーマで文化発信及び交流に取り組むことで、両校の絆を深めることに繋げる。

② 実施

ア 1月 1コマ

イ ICTアプリケーション「ロイロノート」を活用。

ウ メール発送は1月。

③ メッセージ内容

生徒が、個々に多様なテーマでスライドを作成。

④ 生徒作成スライド ※抜粋

<p>3-3</p> <p>日本では、お正月に『おせち』を食べます。重箱の中には、色々な料理が入っています。そのひとつひとつに願いが込められています。</p> 	<p>3-3 5番</p> <p>お正月は毎年おばあちゃんの家に行きます。そこでは、最初に日除けのお経舞をします。地域によってお経舞が違うそうです。私のおばあちゃんの家では、ぜんざいだったと聞きました！私はこの日除けのお経舞が大好きで、毎年楽しみにしています！</p> 
<p>3-3-19</p> <p>HAPPY NEW YEAR</p>  <p>年末に友達に年賀状を書きました。今年は時間があつたので手書きにしてみました。友達に喜んでもらえて嬉しかったです。</p>	<p>3-3 16</p> <p>私は、お正月に北野天満宮でおみくじをひきました。この神社は、勉強の神様がいることで有名です。大学に合格できますように！</p> 
<p>3-3-25</p> <p>日本で人気のあるアニメ『鬼滅の刃(Demon slayer)』とコラボした電車が走っています！</p> 	<p>3-3-26</p> <p>いつも1月1日の初詣の後に家族でカラオケの行くのですが、今年は状況もあり行けなかったのでカラオケアプリで4時間ほど大熱唱しました。</p> 
<p>3-3-12</p> <p>私の家の近くには二条城があります。ここは、世界遺産に登録されています。このお城は、期間によって色々な色にライトアップするのでとても綺麗です。</p> 	<p>3-3 15番</p> <p>クリスマスの京都駅です。京都タワーが光っていたよ。フランスにもイルミネーションはありますか？フランスに行ってみたいです！お返事待ってます！</p> 
<p>3-3-24</p> <p>京都市左京区にある貴船神社です。今年のお正月にここにお参りに行きました。自然が綺麗で、とても素敵な所なのでぜひ訪れてみて下さい！</p> 	<p>3年3組29番</p> <p>京都の中心を流れる鴨川は人々に親しまれています。春にはお花見をする人で賑わいます。</p> 
<p>3-3-4</p> <p>我が家のうさちゃんです。毎日が癒し ♡</p> 	<p>3-3 31</p> <p>私は、部活で書道をしています。これは、文化祭の時に書いた字です。「鶯啼碧樹風」(おうていへきじゆのかぜ) 読みます。ぜひ、書道に興味を持ってみてください。</p> 

6主な成果

(1) 世界同時コロナ禍の中、姉妹校両校生徒にとって楽しみの一つである「東京及びパリ、オリンピック・パラリンピック」や「姉妹校提携ホームステイ研修」等の行事の実施が危ぶまれる中、互いに「励まし」や「文化発信」などのメッセージの往還を通して、オリンピック・パラリンピックの理念の一つである「友情」や「尊重」、「勇気」あるいは「文化」や「寛

	<p>容」などの普遍的価値の大切さを見出し共有し交流するとともに、これまで築いてきた両校の友好・友情の絆をさらに深めることができた。</p> <p>(2) ICTツール（ロイロノート、クラッシー）や、ICT設備環境（ギガスクールWi-Fi環境、電子黒板等）、ICT端末（貸与タブレット・BYOD）などを最大限に活用することで、効率的・効果的に、各取組を実施することができた。</p> <p>(3) 本校「京都文化コース」に設定されている、教科（京都文化科）・科目（2年次：「日本の風土と文化」、3年次：「京都の産業文化」）における2年間の学びの成果を、フランス姉妹校との文化交流の趣旨に沿って、発揮することができた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>(1) ICTの活用</p> <p>① ICT環境</p> <p>ア ギガスクールWi-Fi環境。</p> <p>イ ICT端末（iPad貸与・BYOD）。</p> <p>ウ 電子黒板・プロジェクター等。</p> <p>② ICTアプリケーション</p> <p>ア 「クラッシー」（メッセージテキストの集約、等）。</p> <p>イ 「ロイロノート」（スライド作成、等）。</p> <p>ウ 「キーノート」（スライド作成、等）。</p> <p>(2) 授業担当者間での綿密な調整</p> <p>グローバルな視点に立って国際文化交流する際に注意すべき「ギャップ」や「ミスマッチ」を防ぎ、両校生徒にとってより適切な取組となるよう、フランスジュールゲード国際高校の担当教員と、授業の考え方や内容について随時綿密な調整を重ね立案しながら進めた。</p> <p>特に、「コロナ禍における両国の感覚の温度差」について十分に配慮を要した。結果、文化交流において「新型コロナウイルスに関すること」や「オリンピック・パラリンピック」等の不透明で不安定なテーマを避けることとなった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 国際文化交流の際の様々な“ギャップ”</p> <p>「社会問題」や「人権」などのより高次でデリケートなテーマについては、互いに置かれている状況や価値観の違いについて十分に配慮することが求められる。</p> <p>今回の交流においては、コロナ禍における両国の危機感の温度差により、互いの考え方や状況を配慮し合いながら、テーマを変更することが余儀なくされた。</p> <p>(2) 共有性・継続性</p> <p>今回の国際文化交流などの取組やその成果が、単発で終わらせることなく、校内で共有したり、次年度に向けて継続したりすることが必要であり課題である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック・パラリンピックの理念の一つでもある「友情」や「尊重」、「勇気」あるいは「文化」などの普遍的価値を、フランス姉妹校ジュールゲード国際高校との交流を通して深めることができた。今回の取組を、次年度においても継続したいと考える。</p>